

2020年9月6日（日）聖霊降臨後第14主日  
振起日・十歳児祝福式銀座教会 主日家庭礼拝

**礼拝招詞**

「主はすべてを喪失した者の祈りを顧み、その祈りを侮られませんでした。  
後の世代のためにこのことは書き記さねばならない。

『主を讃美するために民は創造された』。」 詩編102章18－19節

**主の祈り**

**使徒信条** 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、  
イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、  
処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、  
全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、  
生ける者と死ねる者とを審きたまわん。  
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、  
身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

**讃美歌** 151番 よろずの民、よろこべや

**聖書** マタイによる福音書7章7～11節

7:7 「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。 7:8 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。 7:9 あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。 7:10 魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。 7:11 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。」

**牧会祈禱**

天の父なる神さま。9月の第一主日を迎えました。過ぎ去った月の中であなたのみ旨に応じて歩めなかったわたしたちの弱さをお赦しください。あなたから与えられている赦しを受け止めて新しい月の歩みに向かわせてください。不安な世界の情勢の中でも、神様の御国を信じて歩み続けることができますように。どのような時もあなたの御国の門（かど）を尋ね続けることができますように。夏の諸行事を例年通りに行えないまま暑さの中を過ごしています。酷暑の中で生活のリズムを崩し、心身に不調をおぼえている友をお守りください。さまざまな職種で対策を試みている働き人たちをお守りください。不安の中、受験に備える学生たち、キャンパスに通うこともできぬまま夏を過ごす学生たちをお守りください。今年10歳を迎える教会の子どもたちをお守りください。礼拝の中でいただくあなたからの糧に生か

されて、この1週間も神様を見上げて歩むことができますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

## 説教「全能の父なる神」

牧師 高橋 潤

2020年度、主日礼拝においてこれまで使徒言行録を読み進めてまいりました。今年度は、イースターの翌週4月19日より先週の8月30日まで「教会の働き」という主題で御言葉を読んでまいりました。

本日から11月22日まで約3ヶ月間「教会の教え」として使徒信条を学びます。使徒信条は、ニカイヤ信条、アタナシウス信条とともに「基本信条」、「世界教会信条」としてキリスト教会が重んじてまいりました。使徒信条の成立は、主イエスの弟子たちが使徒と呼ばれましたが、その狭い意味での使徒によって成立したのではなく、紀元2世紀のローマ教会の洗礼式の信仰告白に遡ることができるといわれています。その後、5世紀には、現在の使徒信条の言葉が確定しました。

使徒信条が確定するには、長い時間がかかったのです。この使徒信条が成立するまでの同じ期間、同時に新約聖書の27巻、マタイによる福音書からヨハネの黙示録までが確定しました。新約聖書と使徒信条が確定することによってキリスト教会の土台が確立しました。

1954年、私たちの銀座教会が属する日本基督教団は、日本基督教団信仰告白を制定するためにこの使徒信条に前文をつける形を採択しました。私たちは、信仰告白のたびに使徒信条を唱えてまいりました。私たちが、使徒信条を告白することによって、初代教会から変わらない信仰を正しく受け継ぎ、この教会の信仰を正しく引き継いでいくことが求められているのです。使徒信条をもって信仰を告白する度に、キリストの命に与っていることを喜ぶ事が出来るのです。

信仰を告白することは、確信をもって神さまを信頼する事です。ただ漠然と神について考えたり信じた気分になることではなく、生けるキリストへの感謝です。キリストが神の愛をもって私たちを命をささげてまでも愛してくださった神の救いに対して感謝し喜ぶ事が信仰告白です。本日から12週間に亘って使徒信条のいのちの言葉に聞きます。

「全能の父なる神を信ず」と告白する、全能とは、どのように理解すれば良いのでしょうか。日本語では「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」と翻訳されていますが、使徒信条の原文であるラテン語本文の語順は「信ず、神を、父を、全能の」となっていますので、「天地の造り主」は次週取り上げることになっています。

「神を信ず」は、どの民族も神を求めてきました。神が存在しなければ、世界も人生も無意味な混乱に過ぎなくなります。そして、結局は人間が神ならぬ偶像になる世界です。人間は真の神ではないので、誰もそれに耐えることはできないのです。神でない者を神であるかのように扱う混乱した世界です。神を見失ってしまうことも同じ混乱した世界になります。使徒信条は、そのような混乱した世界から神を指し示す道を示します。それが「神を信ず」という最初の言葉です。神を信じることによって人間世界の悲惨さに光が与えられます。神が存在するのは、人間が求めた為に与えられたものではありません。神の憐れみによってイエス

・キリストによって神が示されました。私たちを赦し、愛して、神を信じる信仰を無償で与えてくださいました。ゆえに、神を信ずと告白することが出来るのです。ですから、神を信じるという時、私たちの思いや考えで勝手に神を作り出して礼拝する事は、偽の神でしかないのです。真の神が神を示してくださらないければ私たちは神を信ずと告白できないのです。

「父なる神」の父とは誰の父でしょうか。イエス・キリストが「そのひとり子」と告白されていることから、父なる神はイエス・キリストの父であることが分かります。使徒信条は、父なる神、ひとり子なる神、聖霊なる神という三位一体という三位一体の神を信じると告白しています。全ての基本信条は三位一体の神を信じることを表明しています。

主イエスは、「アッパ、父よ」と祈りました。主イエスは弟子たちに祈りを教える時、われらの父よと祈ることを教えてくださいました。私たちが父なる神と祈る時、私たちは主イエスによって教えられた祈りを主イエスと共に祈っていることを思い出すことになるのです。神は父として、私たちはひとり子イエス・キリストと共に父よと祈る祈禱会に加えられているのです。その時、私たちは主イエスと共に神の子とされる恵みを味わうことが出来るのです。

ある求道者が、その方のお父さんについて丁寧に語られ、天の父なる神は私の父に似ていますかと質問されました。私たちが知っている父は、私たちの親である人間の父です。人間の父を基準に父なる神を理解しようとすると、様々な父がいますし、父も変わりますから混乱することになります。父なる神は本当の神を父として呼ぶことが出来る恵みを与えています。父なる神は愛と憐れみの父です。人間の父と母に問題があっても私たちは、真の父を呼んで祈る道が与えられているのです。

「全能の」とは、どのように理解したら良いのでしょうか。聖書による神を説明する表現は沢山あります。例えば、神は愛なり、憐れみの神、神の忍耐、聖なる神、義なる神という言葉です。そのような聖書の表現を知りつつ、使徒信条は「全能の父なる神」と語ります。神は無力な神ではありません。聖書に登場する言葉には「万軍の主」「大能の神」という力強い表現が用いられることもあります。武力によって圧倒される時、私たちは強敵をなぎ倒す圧倒的な力の神を求めます。そのような、私たちが求める武力や権力や経済力などこの世の力に対して、どんなことでも出来る力を全能と表現しているのではありません。そうではなく、私たちの期待やわがままに答える全能ではなく、神の意志を実現する全能です。私たちはいつでも自分の期待に応える力を持っているかどうか、神の力を品定めすることがあります。私たちの期待に応えるのが全能の神であると思うことが間違いなのです。そうではなく、父なる神として全能なるお方なのです。父として子を愛するのに全能なのです。父のご意志による愛において全能なるお方です。父なる神のご意志による正義を示す全能なるお方です。死に対して、罪に対して、人間を救い出すために全能を発揮されるのです。神が自ら十字架を引き受ける力が全能です。神が死の力を克服し勝利し、復活の主イエスのお姿に神の全能が明らかになりました。

本日与えられた聖書の御言葉は、父なる神が神のご意志によって、「良い物を」くださることを主イエスが語られています。注目すべき事は、良い物とは何かではなく、父と子の関係が語られている事です。主イエスは神を父と呼んで祈る交わりに招いてくださっています。

主イエスは弟子たちに、そして私たちに、あなたがたは「悪い者でありながら」神の子なのだという格別な愛を与えられていることを教えてくれているのです。

私たちの神は父として私たちを子としてくださるご意志を表明し実現してくださる全能の神なのです。神のこの愛の決断を感謝して、神のご意志が行われることを祈り願いたいと思います。全能の父なる神の言葉としてもう一度御言葉を聞きましょう。

7「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。8 だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をというたく者には開かれる。9 あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。10 魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。11 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。

ヨハネの手紙一 3 : 1 「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。」

神は、私たちを子として全能の愛をもって良い物をくださるのです。神への祈りを熱くして使徒信条を告白し続けましょう。

祈りましょう

天の父なる神さま。あなたが私たちが悪い者であることを知りながら、子としてくださるほど愛してくださっていること感謝いたします。あなたの愛に気付かずに無礼の日々、お赦してください。あなたの御心をしっかりと受け止めて、使徒信条を告白する者としてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。 アーメン

**祈 禱(各自、自由にお祈りください)**

**祈禱課題** 10 歳児祝福を迎える子供たちのために

ウイルスの脅威の中にあつて、平和と平安をお与えください

夏の暑さのなかにあつて健康をお守りください

**讚美歌** 3 3 2 番 主はいのちを あたえませり

**献 金**

**頌 栄** 5 4 4

**祝 禱**

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン